

史跡 北黄金貝塚

縄文の丘

KITAKOOGANE

1 縄文の丘 北黄金貝塚

国指定史跡北黄金貝塚は、有数の貝塚分布地帯として知られる噴火湾の東岸にあります。縄文時代前期（約6,000～5,000年前）の台地上の貝塚と低地の水場遺構を中心とした集落遺跡です。指定面積の87,539.88㎡中には貝塚のほか、住居跡や墓、鹿用落とし穴、盛土遺構、水場の祭祀場が発見されています。

丘全体に縄文人の生活の跡が残る北黄金貝塚。ここはまさに縄文の丘といえます。



B地点貝塚

北黄金貝塚の中で一番古い貝塚。貝の種類から当時は今よりも温暖な気候だったことがわかりました。



貝塚から出てくるもの

貝塚からはシカの角や骨でできた道具が貝に含まれたカルシウム分の作用で腐らずに出できます。



A' 地点貝塚

貝塚の中からは縄文人の墓が見つかりました。これまでに14体の人骨が発掘されました。



C地点貝塚

(北黄金2遺跡)
※私有地のため、立入りはご遠慮ください。

水場の祭祀場

生活に欠かせない水が湧き出るこの場所は神聖な場所だったようです。ここでは使わなくなった道具を供養した跡が見つかりました。



縄文時代中頃の住居

縄文時代中ごろの人々は、それまで丘の上にあった生活の場所を湧き水の近くへと移しました。



2 貝塚が伝える縄文人の暮らし

貝塚は5箇所あり、その移り変わりは縄文時代に起こった海岸線の移動と一致します。また、最も大きなA'地点貝塚は平面の大きさが80×30m、厚さが0.8mあり、カキやウニの層にオットセイなどの海獣類の骨が数多く含まれています。貝塚の中をのぞいてみると縄文人が何を食べたのか、どのように獲物を捕ったのかなどの、彼らのくらしぶりが見えてきます。



自然を活かし、自然とともに

貝塚の中にある食べ物やそれらをとった道具を見ると、縄文人が自然の中で自然を活かして生活していたことがわかります。縄文人はつねに自然を畏れ、自然に感謝する生活を忘れず、自然の中の一員であり続けるという考え方を持っていたのでしょうか。だからこそ縄文文化は1万年もの長い間、続くことができたのです。

海はこんなに近かった

約6,000年前は今よりも暖かく、海は北黄金貝塚の丘の裾までできていました。その後、少しずつ気候が寒くなると海は丘から離れていきます。すると、縄文人は住居を海の近くへ移し、そこで貝塚をつくりました。海の幸と山の幸の両方を得られる便利な場所を選んでいたのです。



縄文人の手仕事

遺跡からは、縄文人の手仕事が見えるものがたくさん出てきます。縫い針からは衣服をつくったり、刺繍をしている女性の姿が思い浮かびます。つくりかけで捨てられた道具からはつくり方の順序を知ることができます。また、道具をつくるための道具もあり、まるで縄文人の道具箱を見ているようです。

3 貝塚はゴミ捨て場ではなかった

貝塚の中や下からは人の墓が見つっています。これまでに縄文前期の人骨14体が発見されました。縄文人が「貝塚はすべての生き物の墓地」と考えていたことがわかったのは、アイヌの人たちが同じような考え方を持っていることが参考になりました。縄文人の考え方をアイヌの人たちは受け継いでいたのです。

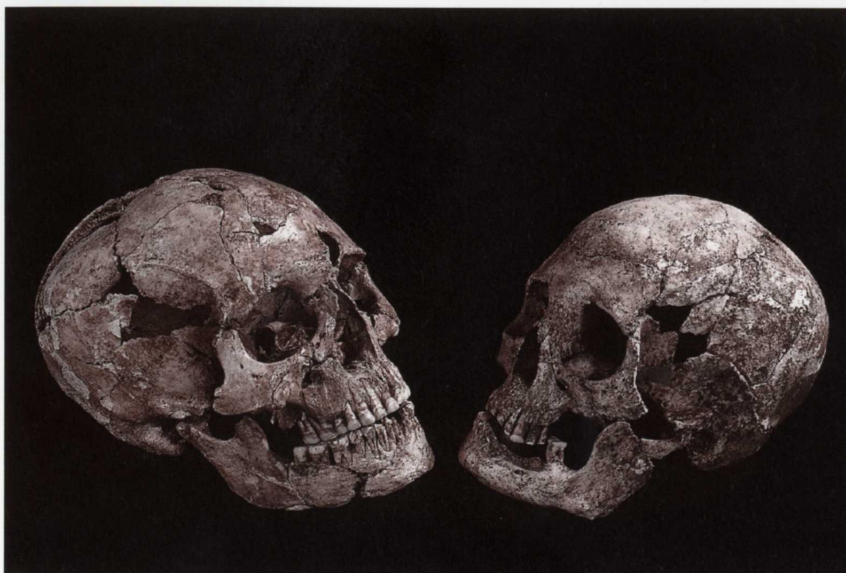
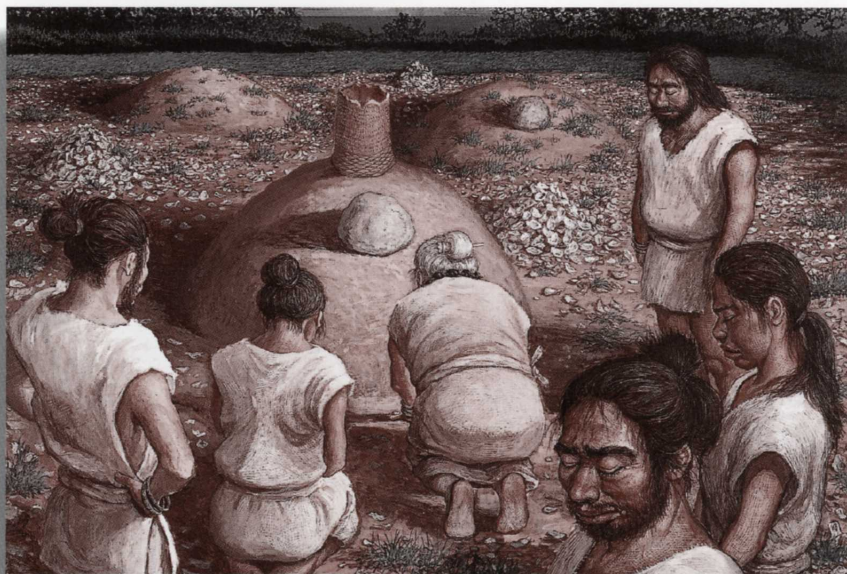


すべての生き物の墓地

貝塚の中からは貝殻や動物の骨などと一緒に、ていねいに葬られた人の墓が出てきます。このことは、貝や魚、シカ、オットセイなどはゴミとして扱われたのではなく、命あるものとして、人と同様に供養されたことを物語っているのです。さらに、木の実の殻や囲炉裏で燃やされて灰になった木などの植物も供養されました。貝塚はすべての生き物の墓地であり、感謝と祈りをささげる場所だったのです。

縄文人の墓

墓を発掘すると、人骨は手足を折り曲げた状態で出てきます。これは「屈葬」と呼ばれる埋葬の姿勢で、向きは横向きと仰向けの場合が多くみられます。墓の上には、土器や台にする石(石皿)が供えられています。手足を折り曲げ、重たい石皿を供えたのは悪い霊としてよみがえらないようにとの願いを込めたからでしょう。



北海道の人のルーツ

北黄金貝塚で発掘された14体の人骨は、北海道で今まで見つっている中で、最も古いものです。そして、古人骨研究には欠かせない基本資料なのです。これらも含めて、北海道の縄文人から近世アイヌ人までの人骨を調べると、各時代の人骨も縄文人の特徴をほとんど変えずに受け継いでいることがわかったのです。

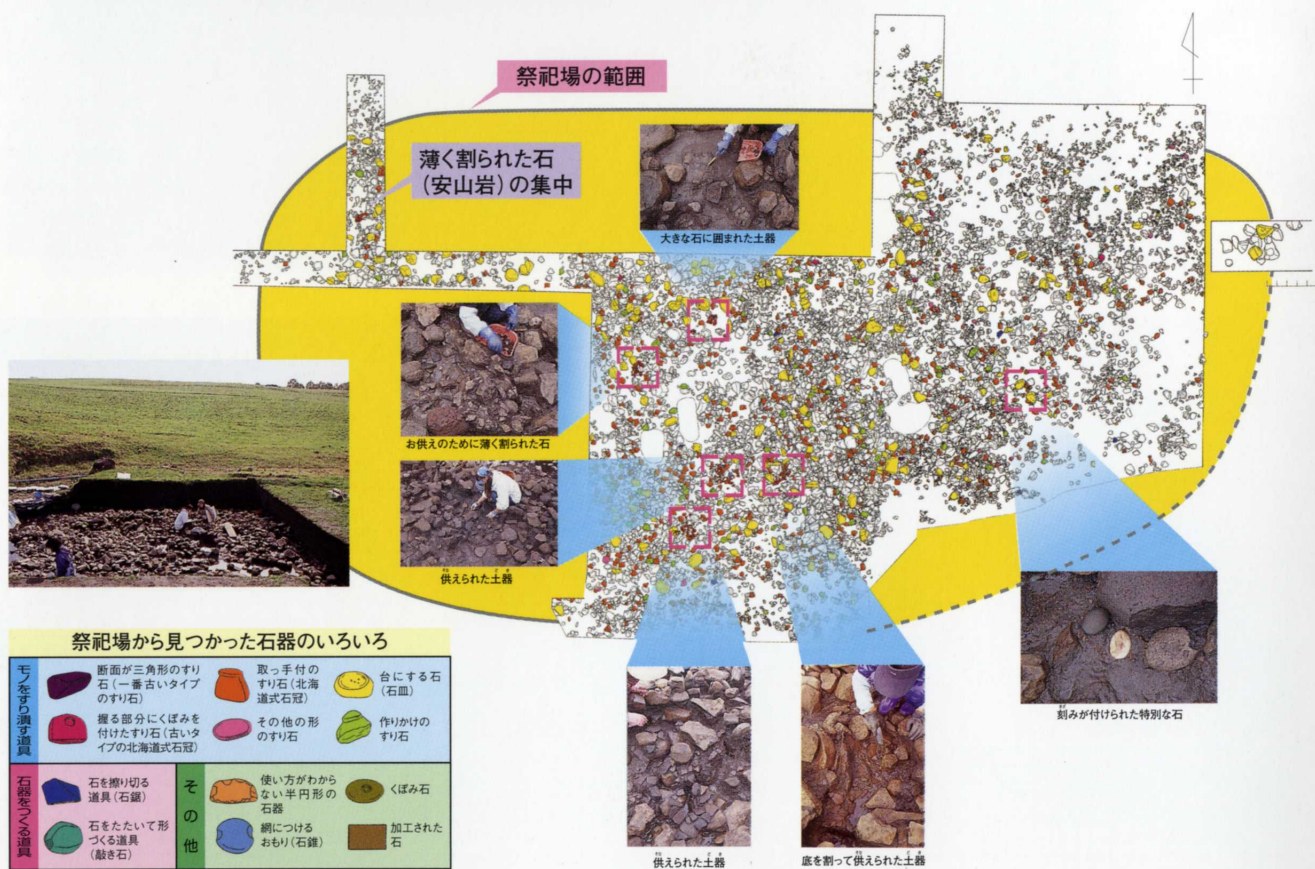
4 すべてのものに命があった

低地の湧き水付近では、約200㎡の発掘区の中に1,209点もの礫石器が供養された、縄文前期の水場の祭祀場が見つっています。また、縄文中期(約5,000~4,000年前)の水汲み用の足場跡も発見されており、集落が移動しても水場は約2,000年間常に使われたことがわかっています。



水場で供養された石の道具

石でできた道具は使わなくなると、わざと水場で壊されました。壊すことで完全に「あの世」へ送られるのです。そして、底を打ち抜いた土器や刻みをつけた特別な石を供えるなどの儀式を行い、道具への感謝と再生を祈ったのです。水場を供養の場としたのは、水が生まれる神聖な場所であることと、材料となる石がとれる「道具の生まれた場所」だったからだと考えられます。



- 開園期間/4月1日~11月30日(期間中は無休)
- 開館時間/9時~17時(入館無料)
- 交通/JR黄金駅から道南バスで「北黄金貝塚公園前」バス下車、徒歩5分
JR伊達紋別駅からバス「室蘭港」行き約20分、「北黄金貝塚公園前」バス下車、徒歩5分

史跡北黄金貝塚公園
北黄金貝塚情報センター
 〒059-0272 北海道伊達市北黄金町75 TEL/FAX(0142)24-2122

伊達市噴火湾文化研究所
 〒052-0031 北海道伊達市館山町21-5
 TEL(0142)21-5050 FAX(0142)22-5445

